

◆経営と健康⑨①

ビジネス感覚に優れた時代の改革者

平清盛②

一龍齋貞花

講談師

平安時代末期、天皇が伊勢神宮を拠り所にしたのに対し、上皇・法皇は熊野三山に参詣をする。鳥羽法皇に仕える清盛もお供をして再三熊野詣で。

保元の乱に共に後白河天皇側について勝利しながら、清盛ばかりが優遇され面白くない源頼朝は、ライバル清盛を倒さんと清盛の留守にクーデターを起こした。これが平治の乱、清盛は落ちのびるよりほかなしと考えたほどだったが、熊野別当湛快のおかげで都へ戻る事が出来、この戦いに勝利を収めます。

清盛がなぜ再三熊野に詣でたのか、信仰していたとか、法皇守護のためお伴ということもあったろうが、ビジネス感覚に優れた清盛の考えがあったのです。

熊野水軍は宋など大陸との貿易のためには、物資輸送の警護、勿論戦いの時には大きな戦力になる。そして各地を修行して歩く山伏の情報、後年武田信玄が富

士御師をスパイ同様情報を得るために活用しています。信玄以前に清盛は山伏を情報源としようとした、戦いと商いの両面狙い。

さらに燃料の木炭。石炭・石油はまだ発掘されていない時代の重なるエネルギー。現在の電力・石油の使用量が薪炭でまかなわれていたといえればその必要量がわかります。寺院の建立、仏像、武器、農具などの製造、朝廷、公家、豪族の生活にも欠かせません。その木炭に最適な木材樫の木産地。

元禄年間に、紀州の炭問屋・備中屋長左衛門が、「煙の出ない、臭いのつかない炭」を研究開発したのが、今や料理ばかりか消臭にも使用されている備長炭。

徳川家康が、紀州を御三家の一つにしたのもこうした経済観念からだったのではないのでしょうか。深謀遠慮ともいえる清盛の優れたビジネス感覚がうかがわれます。

貿易の推進に太宰大貳就任

伊勢平氏清盛にとって丹生鉷山から産出する水銀、別名辰砂、体温計の水銀とは違います。不老不死のため医食同源を唱えた秦の始皇帝の仙丹薬に使われている水銀がこれ。赤い色をしているところから赤は血、命につながるという。漢法薬では鎮静剤として。ヨーロッパではあらゆる願いが叶い、金がたまるという賢者の石とも、ハリーポッター第1作の「賢

者の石」なんです。地方の豪族楠正成が勢力があったのも、自分の領地から出る同じ水銀の権利を有していたから。

宋はじめ大陸で重用されるこの水銀の貿易のため、平治の乱に勝つや太宰府の太宰大貳職を希望し就任、福岡ですから宋との交流に便利、博多湾拡張音戸の瀬戸の航路を聞き、福原の港の整備、当時この港は古い小さな港で東南の風の時にしか船を着けることが出来なかった。難所で工事が大変、そこで当時のことから人柱を埋めようとなった時、清盛は「人の命は大切、人柱はいかん」と、一切経を刻んだ石を埋めて工事の安泰を祈った。疑い深く弟たちを殺害した頼朝とは違う。

後年、福原（神戸）へ遷都したのも港の工事完成には金がかかる、そこで自分の屋敷、寺、建物のある福原へ都を移し、狭い町だから自分の建物や寺を役所などに使用することによって使用料が入る、さらには港の工事を公共事業にしたわけ、抜け目がないといえるが近年でも、西武の堤氏は、自社のホテル、リゾートのある長野へオリンピックを招致、体育協会のお偉い方だからこうして長野五輪決定、長野への便利な道路開通を国の仕事とした。公共事業にしたのは同じことです。

後継者重盛の死

50歳の時、従一位関白太政大臣に就任、翌年病気にかかり平癒後入道し浄海。娘

徳子を高倉天皇の妃に。鹿が谷の平家打倒の陰謀発覚するや首謀者を捕らえ加担した俊寛等3人を鬼界が島へ流罪、お芝居でおなじみです。中宮徳子が安徳出産、その翌年側室の子ではあったが、文武両道ばかりか人格に優れた後継者重盛が死去。有名なお祭り博多どんたくは、平家が福岡を栄えさせてくれた恩義に、病死した重盛の霊を慰めるために行った儀式が始まり。このお祭りに多くの観光客が訪れ金を落としている。平家のお陰が今も。清盛の独走に意見する者がなく、反平家の関白以下公卿、殿上人43人罷免。さらに高倉天皇を退任させ3歳の孫の安徳を天皇に。「平家にあらずんば人にあらず」と豪語したのは、妻時子の弟大納言時忠だが、平家全盛時代で、平家一門の公卿三位以上16人、所領30数カ国500余の荘と日本の約半数を取めるにいたって、平家打倒の動きが激しくなり、追には木曾義仲、源頼朝の旗上げ、源平両軍が富士川の対陣、水鳥の羽音に驚いて敗走した平家の大将が重盛の伴維盛。清盛が死去するや後を継いだのが重盛の弟宗盛。平家は敗戦への道をたどる。

優秀な重盛が生きていたならば展開が変わっていたかも。後継者を決めるだけでなく、自分の健康はもとより後継者の健康にも気を配って頂きたい。改めて後継者の重要性を認識して下さい。